

令和4年度

事業計画

- 1 介護老人福祉施設「緑愛園」・「青葉のまち」・「サポーターティ・もみじ台」
- 2 通所介護デイサービスC「緑愛園」・「青葉のまち」
- 3 短期入所生活介護ショートケア「緑愛園」・「青葉のまち」
- 4 訪問介護事業所「サポーターティ・もみじ台」
- 5 居宅介護支援ケアサポート「緑愛園」・「青葉のまち」・「サポーターティ・もみじ台」
- 6 札幌市清田区第1・第2地域包括支援センター（札幌市委託）
- 7 札幌市清田区第1・第2介護予防支援事業所（札幌市委託）
- 8 札幌シニア福祉機構（自主事業）



社会福祉法人

ほくろ福祉協会

【社会福祉法人ほくろう福祉協会 理念】

「私たちは、人の幸せを望みます。」

～We Wish a person Well (3Wビジョン)～

【私たちは、常に利用者の方にベクトルを向けて、福祉のプロフェッショナルとして高い倫理観と責任感を堅持し、新たな発想で新たな「幸せ」創りに貢献します。】

～ 目 次 ～

基本方針	・・・ P2～3
【事業方針】	
【事業目標】	
I 法人経営・施設運営	・・・ P4～8
① 経営管理部	
② 事業推進部	
③ 介護人材対策	
※ 公益事業『札幌シニア福祉機構』	
II 各施設事業計画値	・・・ P9～10
III 職員配置計画	・・・ P11
IV サービス方針	・・・ P12～29
【緑愛園】	
① 相談支援課	
② 生活支援課	
【青葉のまち】	
① 相談支援課	
② 生活支援課	
【サポーティ・もみじ台】	
① 相談支援課	
② 生活支援課	
【地域包括支援センター（札幌市委託）】	
① 清田区第1地域包括支援センター（清田区第1介護予防支援事業所）	
② 清田区第2地域包括支援センター（清田区第2介護予防支援事業所）	

令和4年度 事業計画

基本方針

【事業方針】

令和4年度は、第五次中期経営ビジョン3ヵ年計画（令和2～4年度）の最終年度となります。重点課題に設定した①人材定着策と確保策の革新②緑愛園建替え準備計画③職務改革と労務管理の強化について、未着手がないよう点検を強化し進めていきます。

昨年度も、新型コロナウイルスの影響により、在宅サービスでは利用控え等の影響が続き施設では、家族の面会制限や実習生・ボランティアの受入れ修正など事業運営は元通りまではいきませんでした。今年度は、withコロナを見据えた対策を強化致します。

本年度は、第六次中計を立案する年となります。中長期的な課題（利用者確保・職員定着・業務改革とICT化による生産性向上など）に対して、戦略的な対策と緻密な手法が立案できるよう、日頃から新たな発想を生み出す議論を活発化し、役職員の実行力と自律のある組織づくりを進めます。

【事業目標】

I 法人経営

- ① 緑愛園の建替え（第六次中計）に伴う自己資金確保のため、資金収支差額の目標を達成します。また、本年度中に候補地が確保できるよう加速します。
- ② 施設入居者・在宅利用者を確保すべく、各施設・事業所の新たな取組を強化し、効果の有無を点検します。
- ③ 本部機構を改正し、2部長制に変更することで機動性を高めます。また、介護人材対策課長の機能を有効活用し、職員定着・人材確保に努めます。
- ④ PDCAサイクルの「C」を強化し、事業計画をはじめ各種課題の取組に対して評価・点検をスケジュール化し検証・報告します。

II サービス

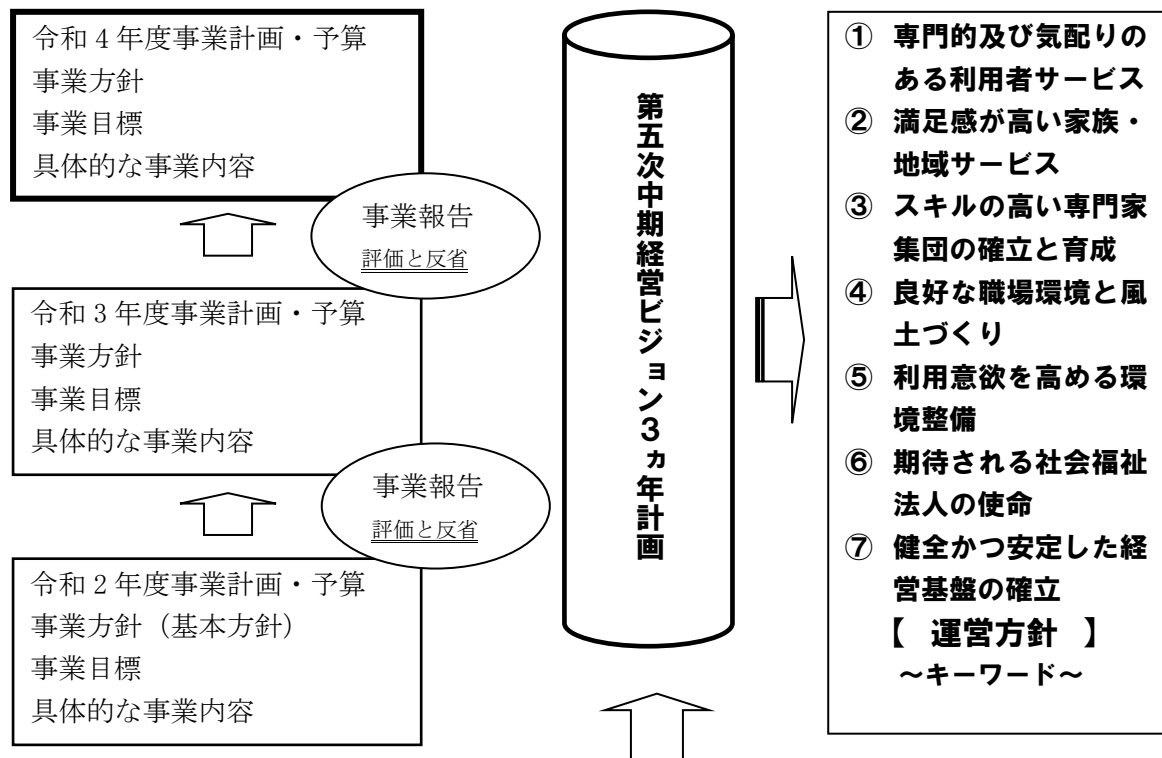
- ① 新型コロナウイルス発生防止のため、感染対策委員会の取組みを充実し、シミュレーション（訓練）を継続します。
- ② 介護職員の動態調査を行い、業務改革による生産性向上のシナリオを策定します。
- ③ ICT等の導入効果を検証し、業務省力化及びサービス提供体制を引続き見直します。
- ④ 現場に配布している業務関連マニュアルの活用実態を調査し、第六次中計で大幅に見直すために準備します。
- ⑤ 利用者サービス向上のために、介護職員の定着化策を各施設で立案し、実践します。

Ⅲ 職員労働環境

- ① 新・「介護職員処遇改善支援金」の効果的な支給方法を確立します。
- ② 定年延長に伴う新・再雇用制度の運用を開始し、職員の将来設計を充実させます。
- ③ 各施設・事業所での職員定着対策を点検・修正し、離職率目標〔全職員 10%(うち介護職員 11%)〕の達成に努力します。
- ④ 被用者保険の適用対象拡大に伴い、対象職員に対し十分な説明による制度理解を促します。
- ⑤ 同一労働同一賃金に伴う諸手当及び福利厚生について、専門委員会を立ち上げ制度素案を準備します。

【第五次中期経営計画と令和4年度事業計画（確認）】

【基本目標】 私たちは、利用者・家族そして地域に信頼の高い施設・事業所を目指します。



【基本理念】 ・ 【長期経営ビジョン】
「私たちは、人の幸せを望みます。」we wish a person well (3Wビジョン)

I 法人経営・施設運営

1. 経営管理部

- ① 第5次中計(令和2年～4年)の総括を行い、第6次中計(令和5年～7年)を策定します。
- ② 緑愛園建替え(第6次中計)に向けた論議・準備を着実に進め、自己資金確保のために資金収支差額の目標達成に向け対応していきます。
- ③ 介護人材対策委員会を設置・運営し、離職率目標(全職員10%、うち介護職員11%)の達成に向け、本部としても職員定着対策を立案・実行します。関連して、育成担当介護主任の機能について評価総括を行い、設置の効果を検証します。
- ④ 介護職員処遇改善支援補助金を活用した賃金の改善を行い、職員の処遇を改善します。
- ⑤ 「同一労働同一賃金」の具体的施策について、専門委員会を立ち上げ議論します。
- ⑥ 正職員の定年延長を反映した新しい再雇用制度を創設し、定年後も安心して働ける職場とします。
- ⑦ パート・アルバイトへの社会保険適用義務化が令和4年10月より従業員101人以上の企業に拡大されるため、対象職員に対し十分に制度を周知し、基準を満たす職員の社会保険加入・加入を希望しない職員の働き方の変更・必要人員確保等の対応を円滑に進めます。
- ⑧ 令和3年12月より稼働した勤怠管理システム導入の有効性確認のため、評価検証を行います。
- ⑨ 職員の平均年齢が上昇傾向にあることから、定期健康診断の再検査対象者の実態把握・再検査推奨の仕組みを構築し、職員の健康管理を強化します。
- ⑩ 人事考課制度及び目標管理制度の課題点を抽出し、運用の適正化に向け為見直しを図ります。

2. 事業推進部

- ① 稼働率及び利用率安定と待機者確保策として、施設による関係機関への PR 活動と同時に法人本部によるサービス事業所とのパートナーシップ協定を推進する事で事業運営の安定化を図ります。
- ② 介護における業務改革の推進と更なる業務効率化の為に、介護職員の動態調査に取り組みます。
- ③ 各種マニュアルの精査(統合・削除・修正等)を行い、動画を含めた新たなマニュアル形式及び法人統一サービスマニュアルの作成により、介護の質向上及び効率性を図ります。
- ④ 業務管理体制マニュアル及び業務継続計画(BCP)を作成し、管理体制の強化を図ります。
- ⑤ 介護ロボット導入マニュアルを整備し、導入前後の効果測定を明確にすることで根拠ある ICT 導入により更なる介護職員の業務効率化を目指します。
- ⑥ コロナ禍における札幌シニア福祉機構の研修事業開催方法として一部オンライン方式を導入いたします。
- ⑦ 職員研修制度を見直し、正職員・非常勤職員等雇用形態別の研修制度等、職員のスキルアップが促進される研修体制を構築し、資質向上に努めます。
- ⑧ 緑愛園の施設建替え用地を確保し、「緑愛園建替専門委員会」で具体的建替え方針を検討いたします。

3. 介護人材対策

- ①介護人材対策委員会を設置・運営し、職員定着対策を立案・実行します。
- ②介護職員の動態調査に取り組み、働きやすい職場環境につなげます。
- ③介護職員の中途採用者採用に向け、確保策を強化します。

重点項目	中項目	細目
職員定着	介護人材対策委員会の設置・運営	新雇用形態（非常勤）・週休3日の検討
		介護職シフトの大幅な見直し
		連携施設間ジョブローテーション制度の検討
	育成体制の強化	介護職員の動態調査の実施
		新業務マニュアルの点検、見直し
人材確保	未経験の中途採用者の確保強化	未経験の正職員採用規定の確立
		求職者支援訓練機関の職場実習の受入強化
	介護福祉士養成校との繋がり強化	介護福祉士養成校の教員へ中途採用者情報を発信
		潜在介護有資格者等へ向けた職場見学会の開催
	高校卒業者の採用	高校訪問の実施
		高校生インターンシップ受入

令和4年度 人材対策計画

	中項目	細目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
職員定着	介護人材対策 委員会の 設置・運営	新雇用形態（非常勤）・週休3日の検討	提案	検討	検討	検討	試行	試行	試行	評価					
		介護職シフトの大幅な見直し	提案	検討	検討	検討	試行	評価	試行	評価					
		連携施設間ジョブローテーション制度の検討			検討				検討			検討			検討
	育成体制の強化	介護職員の動態調査の実施	提案	検討	実施	実施	実施	評価							
		新業務マニュアルの点検、見直し						検討	検討	検討	検討	検討	検討	検討	評価
人材確保	未経験の中途 採用者の確保 強化	未経験の正職員採用規定の確立				検討	検討	検討	実施					評価	
		求職者支援訓練機関の職場実習の受入強化			受入					受入				評価	
	介護福祉士養成校の繋がり の強化	介護福祉士養成校の教員へ中途採用者情報を発信		実施		実施		実施		実施		実施		評価	
		潜在介護有資格者等へ向けた職場見学会の開催			提案	検討	実施		実施	実施	評価				
	高校卒業者の 採用	高校訪問の実施	訪問	訪問	訪問					訪問	訪問	評価			
		高校生インターンシップ受入				提案	実施	評価							

【公益事業・札幌シニア福祉機構】

	セグメント	概 略	令和4年度の計画値・取組み
研修研究事業	①	介護職員初任者研修 介護職員初任者を養成 ～北海道指定養成機関～	8、9月（札幌学院大学） 計画20名の修了者
	②	認知症介護実践研修 （実践者研修） 認知症介護実践職員を養成 ～札幌市・北海道指定実施機関～	7、11月開催（年2回） 計画60名の修了者
	③	認知症介護実践研修 （実践リーダー研修） 認知症介護実践職員を養成 ～札幌市・北海道指定実施機関～	10月開催（年1回） 計画30名の修了者
	④	認知症対応型サービス事業 管理者研修 認知症対応型サービス事業を管理・ 運営する者を養成 ～札幌市・北海道指定実施機関～	11月開催（年1回） 計画30名の修了者
地域連携事業	①	介護技術体験会 未経験や介護資格保有者を対象に職 場見学会とガイダンスを開催	各種大学・専門学校の在学生・ 卒業生・一般受講者向けに開催

※ その他、公益事業として可能性のある事業の検討を随時行う。

※ 認知症介護基礎研修は新カリキュラム変更の為、開催を見合わせています。

※ 新型コロナウイルスの影響により、「現任専門職研修」は開催を見合わせています。

Ⅱ 各施設事業計画値

【緑愛園】

	事業名	定員	稼働率	計画値	令和3年度見込
1	介護老人福祉施設	82+3 (85)	96.8%	1日 82.3名 平均介護度 3.88	80.4名
2	短期入所生活介護	12-3 (9)	92.2%	1日 8.3名 平均介護度 3.22	8.3名
入所計		94	96.4%	1日 90.6名	88.7名
3	通所介護 (一般)	45		1日 25.2名	23.9名
	(総合)			1月 32.0名	38.2名
4	居宅介護支援 (介護) (予防・総合)			月請求 214.5件 月請求 50件	257件
	支援計			計 264.5件	

【青葉のまち】

	事業名	定員	稼働率	計画値	令和3年度見込
1	介護老人福祉施設	70	98.9%	1日 69.2名 平均介護度 3.87	67.7名
2	短期入所生活介護	10	60.0%	1日 6.00名 平均介護度 2.47	5.5名
入所計		80	94.0%	1日 75.2名	73.2名
3	通所介護 (一般)	49		1日 21.2名	21.3名
	〃 (認知)			1日 4.8名	4.0名
	〃 (総合)			1月 26.0名	29.0名
4	居宅介護支援 (介護) (予防)			月請求 177件 月請求 55件	232件
	支援計			計 232件	

【サポータィ・もみじ台】

	事業名	定員	稼働率	計画値	令和3年度見込
1	介護老人福祉施設	80	96.3%	1日 77.0名 平均介護度 3.98	76.1名
2	訪問介護	280		月 1,060時間	1,100時間
3	居宅介護支援 (介護) (予防)			月請求 132件 月請求 30件	144件
	支援計			計 162件	

【地域包括】

	事業名	定員	稼働率	計画値	令和3年度見込
1	第1介護予防事業所		要支援1 要支援2 再委託 総合 総合(再)	月請求 90件 月請求 134件 月請求 60件 月請求 220件 月請求 76件	575件
	予防計			月請求 580件	
2	第2介護予防事業所		要支援1 要支援2 再委託 総合 総合(再)	月請求 140件 月請求 186件 月請求 146件 月請求 268件 月請求 70件	805件
	予防計			月請求 810件	

※令和3年度見込みについては、12月末データを基に作成。

Ⅲ 職員配置計画

職種	緑 愛 園			第1包 括	第2包 括	青葉のまち			ホーティ・もみじ台		
	施設	通所	居宅			施設	通所	居宅	施設	訪問	居宅
施設長	1					1			1		
相談支援課長	1					1					
生活支援課長	1					1			1		
センター長(課長)				1	1						
医務主任	1					1			1		
介護主任	3	1				3	1		3	1	
相談支援主任						1			1		
居宅支援主任			1								
包括支援主任				1	1						
看護師	3	+2				3	+2		3		
機能訓練員	1					1			1		
保健師等				2	2						
主任ケアマネ				3(1)	2(1)						
社会福祉士等	2	2		3	6(1)	1	2		1		
ケアマネ	1		5	2+1	4+1	1		5	1		3+1
サ提供責任者										6(5)	
介護職員	20+15	6+3				21+25	5+4		28+18	+14	
日常生活サポーター	+8					+6			+14		
管理栄養士	1					2			1+1		
調理員						+11					
事務職員	1+2			+1	+1	1+1			1+1		
設備員	+1					1			+1		
カフェ・喫茶						+2			+1		
守衛									+2		
計	36+26	9+5	6	10+2	14+2	39+45	8+6	5	43+38	6+14	3+1
合計	51+31			24+4		52+51			52+53		

(+は臨時B・C職員・嘱託職員・パート職員) ※介護職員・日常生活サポーターは、勤務時間数により人数変更が伴います。

職種	法人本部	備考
参与	1	
事業推進部長	1	
経営管理部長	1	
介護人材対策課長	1	
スタッフ	2+1	シニア事業+事業推進+経営管理
計	6+1	

管理職	14
正職員	167
嘱託	1
臨時・パート(夜勤専門含)	139
※新年度採用者(介護のみ)	4
合計	325

IV サービス方針

● 緑愛園 ●

【全体】

入居者・利用者の生活の質を向上させるため、サービス提供における利用者利益の追求を行います。これまで導入したテクノロジー機器を組み合わせることで活用することにより支援を活性化させ、職場内のコミュニケーションの充実と多職種が柔軟に専門性を発揮し、互いに高め合える職場風土の構築を目指します。

また、継続的にスタッフや利用者・利用者家族へのアンケート調査やこれまでに蓄積している様々なデータを分析し介護業務の見える化とマニュアル作成を行います。加えて BCP の策定を通し、災害に強い施設の在り方を建て替えに向け戦略的に協議します。

（相談支援課）

- ① コロナ時代における『再開』（地域支援・利用者支援・家族支援）に着目し、方法の分析とアプローチ手法を検討します。
- ② ソーシャルワークスキルの向上を追求し、コミュニケーションスキルとプレゼンテーション能力に対する日常的・実践的トレーニングを実施します。
- ③ 相談支援業務におけるリモート面接やショートムービーによる施設紹介等、ICT の活用方法を検討・拡大します。
- ④ 緑愛園の建替えに向け、サービスコンセプトの検討と地域アセスメントの手法を獲得します。

（生活支援課）

- ① 会議及び委員会の精度を高め、業務効率の向上と質の高い情報共有の仕組みを確立します。
- ② 勤務時間別行動調査の実施から効率的な利用者利益の追求を目指した業務整理を行い、業務効率化をアップさせます。
- ③ コロナ禍においても利用者・家族が安心できる責任あるサービス提供を実施します。
- ④ 既存の ICT・介護ロボットの活用拡大を目指し、評価の仕組みを確立します。また、現在の固定概念を捨て、IoT 活用に向けた職員の意識変革を図ります。

● 青葉のまち ●

【全体】

令和 4 年度は、評価と質の向上の年度となります。令和 3 年度に実施した構造改革について入居者サービスの質の向上や職員の労働環境の改善に繋がっているかについて分析・評価を行い、第六次中計の計画策定に繋げていきます。また、最優先課題として利用率の安定化と待機者確保に向けた取り組みを強化する他、職場環境を向上させるための具体的な退職者低減策を実施します。

施設部門では、協力病院の体制変更を視野に入れて、安定的な入居者への医療体制が確保できるよう準備していきます。

（相談支援課）

- ① 待機者確保に向けた具体策を策定し利用率の安定化を図ります。
- ② 通所事業の利用率の安定化を図るため SNS を活用した情報発信を強化します。
- ③ With コロナを視野に入れた家族面会とボランティア受け入れ体制を構築いたします。
- ④ 新型コロナウイルスの終息後を見据えた地域活動を検討します。

（生活支援課）

- ① 正職員の夜勤時間の変更に伴った新しいシフト体制を構築します。
- ② 新型コロナウイルス発生時に迅速な対応がとれるよう研修・訓練を強化します。
- ③ ICT 機器の導入に伴い、記録の水準の向上と効率化を図ります。
- ④ 介護職員の動態調査を行い、業務の省力化及び生産性の向上に繋がります。

● サポート・もみじ台 ●

【全体】

介護サービスの質を向上させるには、人材定着及び離職防止が不可欠となります。現在実施している介護業務を見直し、新たな発想で業務改革を行い人材定着に取り組んでいきます。施設サービスでは、利用している介護リフトやスタンディングリフト、ICT の活用状況と課題整理を行い、効果的な活用を目指します。在宅サービスでは、業務省力化に向け ICT 化を促進します。

（相談支援課）

- ① 待機者確保のため、他事業所からの信頼と関係性づくりに努めます。
- ② 法令遵守に向け業務点検を強化します。
- ③ コロナ禍における地域支援の実践と継続的に取組める内容を模索します。
- ④ 近隣の学校及び施設と防災時連携について協議します。

（生活支援課）

- ① 介護ルーティン業務を見直し、効率性を高め働きやすさを追求します。
- ② 研修体系を整備し、資質向上への取り組みを強化します。
- ③ 認知症ケアの充実に向け、モデルユニットを選定し環境の見直しを行います。
- ④ 新型コロナウイルスを想定した新しい生活様式を検討します。

●清田区第1・2地域包括支援センター●

コロナ禍における新たな環境や課題を鑑みて以下を継続する

- ① 支援が必要な高齢者等が孤立することなく早期に発見され支援に繋がるよう地域全体をサポートするとともに、地域包括支援センターの対応力の向上を図り、総合相談窓口機能の充実を図ります。
- ② 清田区内の介護支援専門員に対する包括的・継続的ケアマネジメント支援力向上のため各種職能団体や各事業所の主任介護支援専門員と協同し介護支援専門員のネットワークづくり、資質向上を図ります。
- ③ 関係機関と連携し、個別地域ケア会議と各層地域ケア会議、生活支援体制整備事業の効果的連動を図り地域包括ケアシステムを推進します。
- ④ サービス利用のみで重度化防止を図るのではなく、セルフケアを基本とし、地域全体が主体的に介護予防に取り組めるよう、地域の医療、介護の関係機関や地域住民の規範的統合を推進します。
- ⑤ 職員定着とサービスの質の向上のため業務内容を点検し、業務の効率化、削減、分散を推進します。

V 各事業部門計画

【 緑 愛 園 】

[個別支援サービス]

重点項目	計画内容		部門
1.質の高いケア	①ICT 利活用による安全性及びケアの効率性の検証と強化	ICT 及び介護ロボット活用の活性化と事業目標達成の為にICTを活用する	施設部門 通所部門
	②実践的ロボット活用の検討	Hug 及び介護ロボット活用後の再評価から利用拡大の可能性と全介助者への適切な支援機器を選定する指標を作成する	施設部門
	③倫理を重視した介護実践と点検強化	専門職としての責任と利用者の生活を重視した支援体制を再構築する	施設全体
2.サービスの充実	①サービスコンセプトの検証及び再構築	サービスコンセプトの再構築を行い、実践への具体的な行動目標を設定する	施設部門 通所部門
	②生活と余暇の相関関係を重視した実践	利用者とスタッフが共に利用者の生活に対する年間目標を設定し、具体的な活動と効果をフィードバックする	通所部門
	③新たな顧客へのアプローチ方法の検討 【見直し】	SNS の活用を拡大し、リードジェネレーション領域の恣意的な接触機会を増やし、ねらいに合せたアクセス方法を検討する	施設部門 通所部門
3.情報発信とリスク管理	①利用者家族が自由に情報を取得できる情報発信システムの検討	LINE アカウントを緑愛園として取得し、定期的に利用者家族へ情報発信できる仕組みを考察する	施設部門 通所部門
	②利用者家族等が施設の運営状況を確認できる情報取得ツールの検討と作成	WEB 上で家族と職員が協働できる方法を検討し、コロナ禍における双方向のコミュニケーションが行える仕組みを確立する	通所部門
	③スタッフによる利用者生活情報の発信力強化	Google フォトを継続活用し、動画や画像を通して利用者の生活状況のみならず、家族が職員を認知できる環境を整える	施設部門 通所部門

[社会資源の発掘及び地域支援強化]

重点項目	計画内容		部門
1.地域課題の分析と地域支援	①個別支援から地域課題を把握できる地域アセスメントの強化	コロナ禍における個別ニーズの変化を整理し、同時に地域課題の変容を把握する	相談支援課
	②新たな社会資源の検討と提案	社会情勢の変化による地域情勢の情報収集と新たなネットワーク構築の形を模索する	全部門
	③資源開発のためのネットワーク構築	ボランティアや地域資源との関係を再構築し、ネットワークにおける現状と課題を整理する	全部門
2.地域力の活用	①地域にいる学生たちの発想力を地域力に組み込める手法の検討と実施	With コロナを見据えた教育現場との“つながり”を再構する	全部門
	②福祉教育の体制強化	コロナ禍における福祉教育システムを検討するため、情報収集と発信を強化する	全部門
	③就労意欲のある高齢者や若い世代の活躍の場を提供	地域の労働資源に着目し、就労機会の提供を積極的に検討する	全部門
3.他機関連携	①他業種の知識を活かした地域診断・分析・PR 方法の獲得と活用	地域分析・診断を向上させるための手法・方法を獲得する	相談支援課
	②他職種におけるビジネススキルの獲得と実践	これまでに学んだプレゼンテーションスキルを活用し、多職種への提案と実績向上に努める	相談支援課
	③つなぎ目のない支援展開のための内部連携強化	内部サービス事業所間において情報共有機能を高め、各事業所の実績を向上させる	相談支援課

[サービス環境]

重点項目	計画内容		
1.スキル向上	①利用者/介護者にとって 安楽な介護スキルの習得	福祉用具活用による効果を測定し、全職員 が容易に福祉用具を活用できる環境を設 定する	施設部門 通所部門
	②コンプライアンスを重視 した実践の再確認と修正	委員会の役割について職員へ再周知し、 委員会での検討・決議(合意)事例を増加さ せる	全部門
	③自発的学習機会の設定 と学びの場の確保	WEB 研修を事業所内で受講できる仕組み を啓発し、積極的な参加と職場内へのフィ ードバックを実施する	全部門
2.介護業務の改 善	①業務課題の分析	勤務別業務時間調査を行い、効率的な利 用者利益の追求を目指した業務整理を実 施する	全部門
	②介護業務内容を検証 し、実践に適した提案と改 善	非専門的業務への IoT 家電導入について 検討する	全部門
	③効率的な業務遂行のあ り方を検討	業務効率に着目した ICT/介護ロボットの活 用組み合わせを検討する	施設部門 通所部門
3.建替え後の環 境検討	①ICT/介護ロボットなどの 物理的環境に関する情報 の取得と今後の検討	ICT/介護ロボット活用による効果を測定す る評価手法を確立する	施設部門 通所部門
	②ICT/介護ロボット/各種 機器の活用アイデア	これまでに蓄積した ICT/介護ロボットの評 価を踏まえて、今後の導入機器を検討する	施設部門 通所部門
	③ICT 等の利活用と人員 配置の検討	現在活用している ICT/介護ロボットから勤 務別業務調査による適正人員を考察する	施設部門

[施設運営の健全化]

重点項目	計画内容		部門
1.介護職員の定着化	①離職理由の把握と分析	退職者及び退職希望者の理由を分析し、戦略的な職員定着と確保について実験的提案を行う	全部門
	②スタッフのモチベーションとコミュニケーション機会の検討	コミュニケーションシート(仮称)の作成と相互交流を意識した職員間コミュニケーション方法を検討する	全部門
	③非常勤職員の就労環境における意見・要望の聞き取り	非常勤職員から日常的な意見や要望、施設評価等を確認できる仕組みを検討する	施設部門
	④職員定着を目指した風土づくり	年2回実施している施設内風土調査から変わりゆく課題を整理し、予測的対応スキルを獲得する	全部門
2.利用者の拡大	①効果的情報発信手法の検討と実践	WEB サービス等、コロナ禍に適した情報発信手法の模索と活用を行う	全部門
	②緑愛園の事業スケールメリットを活かしたサポート体制の構築	内部事業所における課題整理とスケールメリットを活かしたサポート体制を再構築する	全部門
	③効果のある利用者獲得方法の検討と実施(コロナ禍における変更)	場面別ショートムービーを作成しホームページに掲載することで、見学ができなくとも利用検討がしやすい仕組みを構築する	全部門

【 青葉のまち 】

[個別支援サービス]

重点項目	計画内容		部門
1. 認知症ケアの充実	①認知症介護実践研修 修了者による全体職員への理解促進	ユニット会議を活用し、施設内での伝達研修を実施する	施設部門 通所部門
	③継続的キャプション評価と環境改善	感染対策を意識したセミパブリックスペースの環境を確立する	施設部門
2. 専門的ケアの充実	①ユニット実習施設辞退に伴う独自ユニットケアの促進	ユニットリーダー研修に職員を派遣し、伝達研修の中でユニットケアの知識を深める	施設部門
	②事例蓄積とデスカンファレンスの強化	デスカンファレンスの内容を活かした看取り研修を開催し、知識の共有を図る。	施設部門
	③ICTによるサービス記録の効率化	タブレットを活用し、バイタル等記録のICT化を図る	全部門
3. 専門職意識向上	①介護チームにおける情報共有の連携強化	引継ぎ時の情報共有の方法について、多職種評価を行い、連携強化を図る	施設部門
	②OJT機能の推進体制の強化	新入職員に指導方法について年間をイメージしたOJT機会を確立する。	施設部門 通所部門
	③施設全体による実習指導体制の改善強化	技術・知識面を含めた、実習生への指導体制を構築する	施設部門 通所部門

[地域との連携]

重点項目	計画内容		部門
1.地域活動の支援	①地域公益的取組の評価と再構築	新型コロナウイルスの終息後の実施を見据えた検討を行う	全部門
	②近隣町内会に対する地域ニーズの把握調査【見直し】	新型コロナウイルスの影響により今年度は中止とし、終息後の実施を見据えた検討を行う	全部門
	③近隣町内会に対する新しい地域生活支援の提案【見直し】	新型コロナウイルスの影響により今年度は中止とし、終息後の実施を見据えた検討を行う	全部門
2.地域の福祉教育支援	①地域の子ども向け企画の継続的实施【見直し】	新型コロナウイルスの影響により今年度は中止とし、終息後の実施を見据えた検討を行う	全部門
	②地域住民向けの認知症啓発活動の実施【見直し】	新型コロナウイルスの影響により今年度は中止とし、終息後の実施を見据えた検討を行う	全部門
	③利用者と地域住民との交流機会の拡大【見直し】	新型コロナウイルスの影響により今年度は中止とし、終息後の実施を見据えた検討を行う	全部門
3.多様な支援主体の検討	②家族による入居者生活支援の拡大	昨年度変更した家族購入及びネット購入について評価を実施する	施設部門
	③介護保険外サービスの外注促進	外出・通院等で使用する介護保険外サービスの活用を検討する	施設部門

[サービス環境]

重点項目	計画内容		部門
1.リスクマネジメント強化	①福祉用具、介護機器の活用による介護負担の軽減促進	移乗サポートロボット(Hag)の使用対象者の増加を図る	施設部門
	③介護ルーティン業務の見直し	定点観察を継続しルーティン業務の見直しを行う	施設部門 通所部門
2.待機者対策と支援	①関係機関への継続的・計画的訪問	居宅支援事業所及び小規模多機能型事業所の焦点を当てて、PR活動を強化する。	施設部門
3.居住空間整備	②自立支援型デイの評価と環境見直し	昨年度作成した評価項目を活用し評価と環境の見直しを行う	通所部門

[施設運営の健全化]

重点項目	計画内容	部門	
1.介護職員の定着強化	①退職理由の分析と統計化【見直し】	退職者低減策(モチベーションアッププラン)を立案し実施する	全部門
	②職員休息空間の場所及び環境の見直し【見直し】	感染対策を意識した休息空間について要望を確認し環境改善に努める	全部門
	⑤介護職員にとって魅力ある職場を再確認し、職員が他者に誇れる施設作りの実施	夜勤時間の変更(7時10分終了に短縮)について検証する	施設部門
	⑥介護職員の業務負担の分散化を目的とした、超過勤務の労務管理向上	勤怠システム導入に伴って「見える化」した介護職員の超過勤務について検証を行う	施設部門
	⑦介護業務の効率化と削減	ICT導入に伴う記録の音声入力化を図り業務改善に繋げる	施設部門
2.利用者の拡大	①電子媒体を活用した事業所PR訪問の計画的実施	SNSを活用したPR方法について検討し実施する	施設部門 短期部門 通所部門
	③「インターワーカー」による渉外活動の集約化【見直し】	新型コロナウイルス終息後の実施を見据えた検討を行う	施設部門 短期部門 通所部門
	④在宅サービスにおける利用開始後の相談支援の強化【見直し】	利用開始後のフォローアップのためのフローチャートを運用し、効果を評価する	短期部門 通所部門

【 サポート・もみじ台 】

[個別支援サービス]

重点項目	計画内容		部門
1. 施設内リスクの軽減	①虐待及び不適切ケア防止に向けた継続的な活動の推進	施設内のリスク把握と検証及び、不適切ケア防止に向けた取り組みを行う	施設部門 訪問部門
	②接遇向上に向けた継続的活動の実施	標準的な『接遇』について論議し、評価を行う	全部門
2. ICT 機器等の	①記録業務及び通信等の効率化の促進	ICT 機器の継続的な活用に向け、マニュアルを整備する	施設部門
	②介護・スタンディングリフト等の活用と評価	スタンディングリフトの活用に向け、マニュアルを整備する	施設部門
3. 専門的ケアの実践	①認知症ケアの理念と基礎知識の理解及び促進	継続的な学習に向け、研修体系を構築する。また、モデルユニットを設け、環境面の見直しから、認知症理解を深める	施設部門
	②基本的な介護技術の評価とOJTの実施	介護技術向上委員会を運営し、介護技術の標準化を図る	施設部門 訪問部門
	③アドバンス・ケア・プランニング（人生会議）及び看取りケアの協議と周知	全入居者へアドバンス・ケア・プランニングの実施、評価をもとに、看取り指針を改定する	施設部門

[地域との連携]

重点項目	計画内容		部門
防災対策の確立	①災害時マニュアルの整備と周知	災害時業務継続計画(BCP)内容を検証し、職員周知を行う	全部門
	②火災及び地震等避難訓練の強化	警報機器の操作研修と訓練を組み合わせ、災害時対応の理解を深める	全部門
	③近隣の学校・施設との防災時連携の構築	関係機関と防災に関する取り組みの共有と、連携方法について協議を行う	全部門
2. ボランティア活動の充実	①新規ボランティア獲得に向けた継続的な活動	コロナ禍に合わせた活動内容を増やし、福祉系の学校や関係機関へボランティア募集を開始する	施設部門
	②生活支援ボランティアの検討	感染防止に配慮した生活支援ボランティアを検討し、募集を行う	施設部門
	③外出行事におけるボランティア協力の検討	安全・安心な外出ボランティア活用に向け、活動時の役割と留意事項を整理する	施設部門
3. 地域支援・貢献活動の体系化	①生活支援に焦点化した地域の公益的な取り組みの実施【見直し】	コロナ禍において実施可能な生活支援の検討と試行	全部門
	②老人クラブ・まちセン等地域関係機関との連携強化	地域ニーズとして、交通安全活動及び地域見守り活動を実施する	全部門
	③地域交流スペースの積極的な活用の検討	新型コロナウイルスの状況を見て、医療・福祉系の学校と協同し地域向け講座を開催する	全部門

[サービス環境]

重点項目	計画内容		部門
1. 新しい食事提供体制の確立	①完全調理済み食品提供の体系化と検証	食事発注、納品、栄養ケアマネジメントの効率的及び運営基準に沿った点検を行う	施設部門
	②嚥下調整食の検証と提供方法の体系化	定期的に定点観察を行い、提供方法について評価する	施設部門
2. 新介護人員配置の確立	①日常生活サポーター業務の見直し	日常生活サポーター及び介護職員のルーチング業務を再構築し、効率化を図る	施設部門
	②夜勤5名体制の導入による業務体制の見直し	夜勤5名の運用状況を定期的に評価し効率的、効果的な運用に繋げる	施設部門
	③入居者支援に係る新たな雇用形態の検討	障がい者雇用における留意事項の周知及び、業務内容を整理する	施設部門
3. 食事の安全な楽しみの実現	①ケータリング・実演等の特色ある行事食の提供	ユニット企画と栄養士企画を組み合わせ効果的に実施する	施設部門

[施設運営の健全化]

重点項目	計画内容		事業区分
1. 介護職員の定着強化	①就労及び休憩環境の整備と改善	職員が希望する休憩室の活用を整理し環境を整備する	全部門
	②プリセプター方式等による職員育成方法の検討と実施	中途採用者に効果的な育成方法等を検討する	施設部門
	③心理カウンセラー（外部機関）の活用の検討	医療機関以外の大学等が実施する心理カウンセラーの情報提供を希望者に行う	全部門
	④退職者ヒアリングの検討と実施	ヒアリング方法の再検討を行い、新たな手法を実施する	全部門
2. 利用者の拡大	①事業所PR方法（チラシ・広報誌・見学会等）の検討と実施	コロナ禍に合わせた小規模の施設見学会を検討・開催する。また、昨年度作成したPR動画を効果的に活用する	全部門
	②インスタグラム等のSNSの積極的な活用と評価	インスタの活用時の留意事項を整備し、定期的な情報発信に繋げる	全部門
	③外部機関（病院・老健・地域包括）への定期的なアプローチ	他事業所との関係性づくりに向け、訪問による事業所PRの実施と、入居後のフィードバックを展開する	全部門
3. その他	①全職員が協力して働ける環境づくり（5S活動の推進）	全職員で取り組めるように、内容や実践状況を可視化し、5S活動を強化する	全部門

【清田区第1・第2地域包括支援センター（札幌市委託）】

[個別支援サービス]

重点項目	計画内容		事業区分
1.適切なケアマネジメント	①自立支援に資する介護予防ケアマネジメントスキルの向上	内部研修や個別地域ケア会議の活用により自立支援に資するケアマネジメントの強化の取組を継続する	介護予防支援
	②ケアマネジメントにおけるタイムマネジメントの推進	各職員が時間の活用を自己分析し課題解決について具体的取り組む	介護予防支援
	③職員の業務量における平準化の推進	業務量の偏りの要因をセンター内で共有し解消のための取組を推進する	介護予防地域支援
2.法令順守	①コンプライアンスの再確認と強化(書類管理体制等)	直ケース、再委託ケースのコンプライアンスの遂行状況の確認と改善を継続する。	介護予防支援
	②サービス提供記録(ケアプラン・モニタリング等)の記載方法の強化	介護保険改正により求められる記載方法に基づき各職員が自らの記録の課題の改善に取り組む	介護予防支援
	③介護保険制度・総合事業改正ポイントの適正運用	各サービスにおける加算算定など改正内容に則った適正運用を強化する	介護予防支援
3.職員育成	①職員定着の為にOJT機能体制の強化	全職員が相互に補完しあえる環境を構築に取り組む	介護予防地域支援
	②効率的な業務推進の為に業務内容の点検と見直し	効率的な業務遂行の在り方について共有し改善点について検討する	介護予防
	③就労時間適正化の為に、時差出勤制度・有給管理等の推進	活用の具体的イメージの共有により時差出勤や有休取得の推進を継続して取り組む	介護予防地域支援

[地域包括支援（地域との連携）]

重点項目	計画内容		事業区分
1.総合相談支援	①総合相談窓口としての相談受理(インテーク・スクリーニング等)の強化	相談受理と対応に必要なスキル向上を目指した取組みを継続する	地域支援
	②認知症高齢者・家族が暮らしやすい環境の整備(啓発活動・家族会等)	コロナ禍において認知症高齢者や家族が孤立せずに、早期相談、早期対応につながる地域づくりを推進する	地域支援
	③各種機関(弁護士等職能機関、サービス事業所、地域関係機関等)との連携による権利擁護支援体制の充実	区内における権利擁護支援力の強化のための取組を実施する	地域支援
2.包括的・継続的ケアマネジメント	①各種関係機関との連携促進の課題分析と取組み	地域の多様な機関とコロナ禍での高齢者支援における課題を共有し解決にむけた連携強化に取り組む	地域支援
	②介護支援専門員・主任介護支援専門員との研修会・情報共有等を通じたネットワークづくりの推進	包括的継続的ケアマネジメントの環境整備(※)を PDCA サイクルに則り、区内のケアマネジメント力連携の向上を継続する	地域支援
	③関係機関との地域ケア会議の効果的な運営の促進	関係機関とコロナ禍の状況に即した効果的な地域ケア会議の運営を継続する	地域支援
3.地域づくり	①地域包括ケアシステム構築のための地域アセスメントの推進	各地区の課題解決のため地域支援を具体的化するアセスメントを深化させる	地域支援
	②介護予防センター・生活支援コーディネーター等と協同し社会資源(集いの場・生活支援)開発の推進	各地区におけるニーズに基づく資源づくりについて各機関と具体化する	地域支援

(※介護保険外の関わりも含め、包括的・継続的ケアマネジメントを可能にする体制を作り、個々の介護支援専門員が多職種・多機関と連携をとりながら高齢者を支える活動ができる環境を整備すること)